ＧＯＤＺＩＬＬＡ（1998）

GODZILLA

メディア 映画
ジャンル ＳＦ　パニック
製作国　アメリカ
色彩　Color
時間　138分
初公開日 1998/07/11
公開情報 東宝

【キャッチコピー】
人類に打つ手は無い。

【解説】
　世界に誇る日本映画最大のキャラクター、怪獣王ゴジラが「インデペンデンス・デイ」のスタッフによって、ついにハリウッドで映画化された。
　タヒチ沖で海難事故が続発する一方、パナマの丘陵地帯で巨大な足跡が発見される。調査にあたった生物学者ニックは、これが核実験の影響で誕生した新種の巨大生物ではないかと推測。ジャマイカでは大きな爪痕を付けられた日本漁船が打ち上げられ、生存者の老人はうわごとのように“ゴジラ”と呟き続ける。そして長雨に曝されていたニューヨークへ突如、その生物は現れた。だがニックや軍隊が駆けつけた時、すでにその生物－－ゴジラは消えていた。マンハッタン島のどこかに潜伏しているのは間違いない。エサに釣られて再びその巨体を現したゴジラはヘリ部隊の追撃を逃れまたも姿を隠してしまった。ニックはゴジラの体液からこの巨大生物が妊娠状態にある事を知る。ゴジラはマンハッタンに巣を作ろうとしているのだ！
　従来のデザインから大きく離れ生物的リアリティに溢れた造型が観る前から賛否を巻き起こしていたが、そんな事はこの一本調子で見せ場に欠けるシナリオの前では些末な障害に過ぎなかった。生存本能のまま行動するゴジラにはモンスターとしての凄みは無く、ＮＹの街を破壊するのはゴジラではなく無能な軍隊であり、昔の恋人とよりを戻す主人公など取って付けたような人間ドラマにも閉口せざるを得ない。マジソン・スクエア・ガーデンで繰り広げられるベビーゴジラの群れと戦うシーンなど「ジュラシック・パーク」の安易な焼き直しでしかないのだ。保険調査員、実は仏諜報部員というジャン・レノの役どころなど面白くなりそうな部分もなくはなかったが、概ねのところでこの作品は失敗している。せっかくの題材をうまく活かしきれなかったスタッフには猛省を促したい。

【クレジット】

監督	ローランド・エメリッヒ	Roland Emmerich
製作	ディーン・デヴリン	Dean Devlin
製作総指揮	ローランド・エメリッヒ	Roland Emmerich
	ウテ・エメリッヒ	Ute Emmerich
	ウィリアム・フェイ	William Fay
原案	テッド・エリオット	Ted Elliott
	テリー・ロッシオ	Terry Rossio
	ディーン・デヴリン	Dean Devlin
	ローランド・エメリッヒ	Roland Emmerich
脚本	ディーン・デヴリン	Dean Devlin
	ローランド・エメリッヒ	Roland Emmerich
撮影	ウエリ・スタイガー	Ueli Steiger

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.

編集	ピーター・アムンドソン	Peter Amundson	
	デヴィッド・Ｊ・シーゲル	David J. Siegel	
音楽	デヴィッド・アーノルド	David Arnold	
出演	マシュー・ブロデリック	Matthew Broderick	ニック・タトプロス
	ジャン・レノ	Jean Reno	フィリップ・ローシェ
	ハンク・アザリア	Hank Azaria	ビクター・“アニマル”パロッティ
	マリア・ピティロ	Maria Pitillo	オードリー・ティモンズ
	ケヴィン・ダン	Kevin Dunn	ヒックス大佐
	マイケル・ラーナー	Michael Lerner	ニューヨーク市長
	ハリー・シェアラー	Harry Shearer	チャールズ・ケイマン
	アラベラ・フィールド	Arabella Field	ルーシー・パロッティ
	ヴィッキー・ルイス	Vicki Lewis	エルシー・チャップマン博士
	ダグ・サヴァント	Doug Savant	オニール軍曹
	マルコム・ダネア	Malcolm Danare	メンデル・クレイブン
	クライド草津	Clyde Kusatsu	
	加藤雅也	Masaya Kato	
	グレン・モーシャワー	Glenn Morshower	
	リチャード・ガント	Richard Gant	

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.